

わがまち紹介



常陸大宮市

人が輝き 安心・快適で
活力と誇りあふれるまち

市民の豊かさのために ソフト・ハード両面の施策を実施

2020年4月に市長に就任してから約5年間、現在2期目の市政運営を担っているところです。わたしは市長就任時からずっと「市民が豊かになってほしい」との思いを持ち続けています。その思いに関連してこの5年間を振り返ってみますと、ソフト・ハードの両面で手応えを感じた政策がありました。

ソフト面では、入札制度の見直しとプレミアム付き商品券の発行を行いました。

建設工事における入札方式の一部を「総合評価落札方式」とし、市の表彰制度や市への貢献などにより加点される「地元加点」の仕組みをつくり、同等の施工技術を持つ企業であれば地元企業が受注しやすいように見直しました。これは地元の建設・土木関連事業者からの評判もよく、収益の改善にもつながっているようです。

他方、「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を使い、市内の消費拡大と地域経済の活性化を図るために、市内の商店などで使用できるプレ

ミアム付「ひたまる商品券」を発行しました。これも地元商店や市民の皆さんから大変喜ばれました。

ハード面では、わたしの政策の一丁目一番地と位置づける「常陸大宮駅周辺整備事業」の進展が挙げられます。第1期整備で常陸大宮駅の新駅舎が完成し、2025年2月1日から一部供用を開始しました。

ハード事業で大切なことは、目に見えて変化が実感できることです。市民の皆さんには新駅舎の完成を機に、市が良い方向に変わっていくのではという期待を持っていただきたい。それが本市の活力源の一つになると考えています。

常陸大宮駅周辺施設は 伝統の農村歌舞伎舞台がモチーフ

本市では現在、「人口流出を防ぐための強靱なダム（政策）の構築とその実践」を政策プロジェクトに掲げ、誰もが住み続けたいと思える市の実現に向けて、本市の最重要課題である「人口減少、少子化対策」に重点を置いた3つの政策を柱に各種施策を進めています。



株式会社筑波銀行
大宮支店長
中庭 和美

常陸大宮市長
鈴木 定幸氏

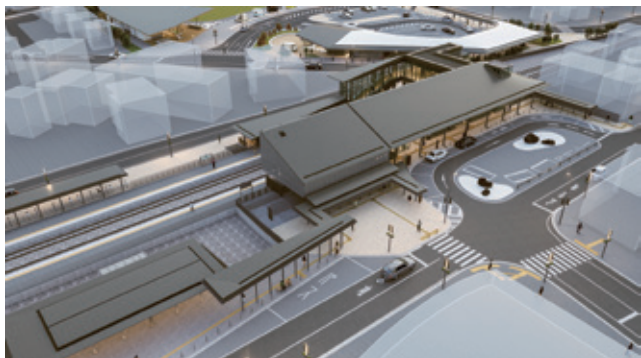
筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県常陸大宮市です。筑波銀行大宮支店長 中庭 和美が常陸大宮市長 鈴木 定幸氏にお話を伺いました。

一つ目の柱の「若者・女性が住みやすく、子育てしやすいまちの実現」では、若者や女性、さらに子育て世帯が居住したくなる、快適でお洒落なコンパクトシティの形成を目指すとともに、子育てにおけるさまざまな課題の解決を図るための施策を展開しています。

なかでも、「常陸大宮駅周辺整備事業」では、新駅舎の供用開始に続き、2026年春には東口・西口から駅にアクセスできる「東西自由通路」の完成、2027年春には市民の憩いの場所となる「駅西交流拠点」の完成を目指しています。

これらの施設は、本市西塩子地区に伝えられ、江戸時代後期の道具も残る組立式の農村歌舞伎舞台で茨城県指定有形民俗文化財、「西塩子の回り舞台」をモチーフとしてデザイン、設計を統一しています。東西自由通路と駅西交流拠点には本市産の木材を使用し、一部に伝統産業である漆を使うなど、地域経済循環を目指します。

将来的には、駅東口にアクセスする都市計画道路「大宮停車場線」が整備され、駅の北東側に集積する医療・福祉機関への安全・円滑な移動、街のにぎわいを創出するために飲食店の使用を想定する片側4.5mの歩道が設置される計画です。



常陸大宮駅周辺整備事業(東口)イメージパース

本市への定住促進のため 家庭菜園付き住宅を整備

また、「子育て世帯向け住宅整備事業」として、ライフスタイルや家族構成により間取りを変えられるスケルトン・インフィル構造を取り入れた家庭菜園付き住宅の整備を行っています。2025、2026年度の2期でそれぞれ8戸を整備する予定で、第1期8戸の募集が2025年3月から行われています。

ソフト面では、市内に住宅を取得した子育て世帯、新婚世帯などを対象として、住宅取得奨励金に、新規で水道に加入する場合の水道加入金助成を行い、高額だった水道加入金の負担軽減を図り、近隣自治体と比べ低額で加入できる助成加算制度をつくりました。

ほかにも、県内唯一の取り組みとして、不妊治療を行った夫婦への保険適用外の自己負担分の全額助成や、「新婚家庭家賃助成制度」で所得制限の撤廃とあわせて、助成額の引き上げと期間延長を行っています。

子どもたちの遊び場の整備

子育て支援に関連して、市長就任前から子育て世帯や幼稚園・保育園の経営者などと意見を交換するなかで、出てきた意見の一つに「本市には児童公園など子どもたちを遊ばせる場所が少ない」というものがありました。

そこで市長1期目の2023年5月に、哺乳瓶のトップブランドとして有名なピジョン株式会社さんからいただいた企業版ふるさと納税の寄附をもとに、「道の駅常陸大宮 かわプラザ」内に「ピジョンの広場」という公園をつくりました。

また、2023年11月には「常陸大宮ショッピングセンターピサーロ」に、屋内の遊び場として「わくわくピサーロの森」をつくりました。両施設とも日曜、祝日には多くの子どもたちが訪れ、予想以上のにぎわいを見せています。

常陸大宮駅周辺整備事業の一環として整備する「駅西交流拠点」についても、それこそニューヨークのセントラルパークのように、市の中心部にある公園として、子育て世帯をはじめ多くの市民に親しまれる公園になってほしいと期待しています。

県内唯一の取り組みで 子どもたちに「確かな学力」を

二つ目の柱は、「学力向上にコミットする教育の推進」です。高い学力は、子どもたちの将来における選択肢を大きく広げます。

施策の一つ、「『確かな学力』育成プロジェクト」では、子どもたちの学習への「関心・意欲・態度」を測る「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート(hyper-QU)」、「思考力・判断力・表現力等」を測る「認知能力検査(NINO)」、「知識・技能」を測る「標準学力検査(NRT・CRT)」を行い、これらをデータ化することで、子どもたち一人ひとりに合った指導を行っています。これらのアンケートや検査を同時に導入しているのは、県内でも本市が初めてです。

それに加え、授業診断ツールを活用し、教職員の指導技術を可視化・データ化することで、客観的なデータをもとに指導内容の改善に取り組んでいます。



データを可視化して子どもたちの指導に生かす

魅力ある観光施策で 域外から人や資金を呼び込む

三つ目の柱である「観光を軸とした地域振興」に関しては、施策の一つとして2025年度に市の振興財団と観光協会を統合して「一般財団法人常陸大宮市観光物産協会」を設立します。

市の観光地域づくりの司令塔として、市内特産品の振興、PRによるふるさと納税額の伸長などにより、地域の稼ぐ力を向上させ、域外から人や資金を呼び込む事業を推進する役割を担います。

関連公共施設の整備では、「道の駅常陸大宮」の南部エリアに新たにグラウンドゴルフ場を整備します。当道の駅は、ここ2年連続で過去最高の業績を更新していますが、平日の売り上げの底上げが課題でした。そこでグラウンドゴルフ場の整備により新たな利用者層の開拓につなげるとともに、高齢者の健康増進にも寄与するものと考えています。

キャンプ場などからなる複合施設「パークアルカディア」については、本市の公共施設では初めてとなる民間提案制度の導入により、民間企業のアイデアや事業企画力を活かした施設のリニューアルに着手しています。

また、「御前山ダム周辺活性化事業」として、ダムの湖面を活用したアクティビティや体験ツアーなどの実施、カヌー発着所の整備などを行います。御前山ダムについては、市が包括連携協定を結んでいるアウトドア総合メーカーの株式会社モンベルの会長さんと、将来的にはカヌーでしか行けない「湖面に浮かぶ泊地」など、日本で唯一のものをつくりたいと夢を語り合っているところです。

イベントについては、お客さまが「また行ってみたい」とリピーターになってくれるようなイベントを継続して実施していきたいと考えています。

たとえば関東一の大鍋でつくる「やまがた宿芋煮会」は多くの来場者が見込めます。その大鍋を年に1回芋煮だけに使うのではもったいない。そこで他に大鍋を使用したイベントを開催してもいいかもしれません。

竹あかりイベント「ひたち大宮 DRAGON BAMBOO」は、観光庁の地域観光新発見事業に採択された『「竹と桜」の辰ノ口アートプロジェクト』の一環として、2025年3月に初めて行われました。このイベントも一過性にせず継続していきたいと思っています。



にぎわいをみせる道の駅常陸大宮 かわブラザ

農業アカデミーの設立と 有機農業の推進

三つの柱に加え、市の重要課題である「農業振興」については、施策の一つとして農業の担い手確保につなげるための人材育成機関「常陸大宮市農業アカデミー」の設立に向けた準備を進めているところです。

座学は県などの講座を利用する一方、実技は市内の農業法人や認定農業者、グループなどに有償で指導をしてもらう予定です。本市に来れば、農業経験がゼロでも自立するまで切れ目なく伴走して支援してもらえるという仕組みをつくりたかったのです。知識や技術の習得後も、農地や住宅のあっせん、農業機械購入の補助など、一貫して支えていく予定です。

本市は2023年度に有機農業に地域ぐるみで取り組む産地として「オーガニックビレッジ宣言」を行いました。有機農業を推進する大きな理由の一つには、これからの日本を担う子どもたちの健康を考えたとき、学校給食において、有機農産物を食べることをきっかけに、保護者の食育への意識を高めるという観点から、学校給食をオーガニックにしたかったことがあります。

2024年度に学校給食で使用された有機栽培による米は全体の約5割の約14トン、野菜が11品目の約6トンと年々増加しています。今後も持続可能な農業の実現を目指し、有機農業の取り組みをさらに加速させます。



市内小中学生に有機農産物を使用した給食を提供している(2024年)

筑波銀行に期待すること

筑波銀行は、取引先の自治体や民間企業の動向に関する情報をたくさんお持ちだと思います。取引先を訪れる際、そうした情報のなかから他の取引先に資するような情報の提供をお願いできればと思います。

たとえば子育ての話題がでたときに、「常陸大宮市ではこんなことをやっています。確か助成制度もあるはずです」というようなPRをしていただけるとありがたいです。

筑波銀行には、地域と運命共同体だという意識で行政とともに地域の活性化にご協力をお願いします。

(取材日:2025年2月12日)

わがまちの特*産*品

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。



#常陸大宮市

奥久慈の花桃



木肌がきれいな若い一年枝を一束一束丁寧に包装して出荷しており、アレンジのしやすさが評価されています。夏期の手入れを行うことで側枝を増やしボリュームを出し、共同促成室で集中一元管理を行い、品質の向上と均一化を図っています。



奥久慈いちご

豊かな自然環境のなかで丹精込めて作られたいちご。濃い甘みと実の美しさが自慢です。茨城県オリジナル品種「いばらキッス」「ひたち姫」はもちろん、自家交配したオリジナル品種など常陸大宮市ならではのいちごを楽しむことができます。

西ノ内紙



西ノ内紙は旧山方町の「西野内」という地名に由来します。県の無形文化財にも指定されており、常陸大宮市を代表する伝統産業でもあります。手漉き和紙の場合、産地ごとに和紙の規格が決まっており、「西ノ内紙」という商品は1尺1寸×1尺6寸(33cm×48cm)という伝統的な大きさの紙を指します。



生クリーム大福

柔らかくつきあげた餅にあんと生クリームを包んだ地域の定番手みやげです。あんは基本の12種類のほか、地元奥久慈いちごや舟ヶ作ぶどう園のシャインマスカットをデコレーションした常陸大宮ならではの商品も販売しています。



瑞穂牛

瑞穂牛はエサにこだわり、自社農場で生まれた子牛から出荷まで育てる一貫生産が特徴です。しっとりとした脂質が特徴で良質な牛肉として評価されています。